

# きらきらの ネックレス

カロライナはネックレスをもう少し自分のものにしてほしいと思いました。



カロライナ・マリン  
(ほんとうにあったお話をもとに書かれました)

このお話は、アルゼンチンでの出来事です。

カロライナはスキップして庭を回りました。友達のエザベラが外にいます。

エザベラが手をふりました。「うちに来て遊ぼうよ!」

カロライナは庭を横切ってエザベラの家に向かいました。

エザベラがポケットに手を入れました。「ちょっと見せたいものがあるの。」すると、カロライナが見たこともない、美しいネックレスを取り出したのです。小さな宝石はとてもきらきらとかがやいていました。

「わたしのママのなの」とエザベラは言いました。「今日はこれで遊んでもいいって。太陽の光に当てるとこうなるのよ。」

エザベラはネックレスを光に向かって持ち上げました。宝石から何百ものにじが反射しました。そのなんと美しいこと!

「今からかくれんぼして遊ぼうよ!」エザベラが言いました。

「うん!」とカロライナは言いました。「ネックレスを持っていてあげるわ。」

「ありがとう!」エザベラがカロライナにネックレスをわたす

と、カロライナはそれをポケットに入れました。

それから間もなく、家に帰る時間になりました。別れをつけるとき、エザベラはそのネックレスについて何も言いませんでした。わすれていたにちがいありません。そしてカロライナは、エザベラにそのことについて言いませんでした。

カロライナはネックレスを家に持ち帰ることに少し悪い気持ちを感じましたが、もう少し長く持ちたいと思いました。カロライナはいやな気持ちを無視して、ネックレスをまくらの下に置きました。

次の日は土曜日でした。カロライナは家のお手伝いをし、外に出て遊びました。ネックレスのことはすっかりわすれていました。

「カロライナ!」パパがよびました。「こっちに来れるかい?」カロライナは走って家の中に入りました。「何?」

パパはネックレスを手にもっていました。「まくらの下にあるのを、ママが見つけたんだ。これはだれのかな?」

「エザベラのもの。」カロライナの目になみだがあふれてきました。「昨日遊んでいる間、ポケットに入れて持って来てあげたの。でも、その後お家を持って帰ることにしたの。」

ママはカロライナと一緒にソファーにすわりました。「ほんとうのことを教えてくれてありがとう。これからどうするべきだと思う?」

カロライナは静かになり、イエス様について考えました。イエス様ならカロライナに正直になり、ネックレスを返してほしいと思うでしょう。

「エザベラに返して、ごめんなさいと言うべきよね」とカロライナは言いました。そう言うとすぐに、いやな気持ちは消え去り、胸が熱くなるのを感じました。

カロライナはエザベラの家に行きました。

「こんにちは」とカロライナは言って、エザベラにネックレスをわたしました。「これを持ったままでごめんなさい。わたしをゆるしてくれる?」

「うん」とエザベラは言いました。「返しに来てくれてありがとう。」そして彼女は笑顔になりました。「またかくれんぼして遊ばない?」

「うん! エザベラが先に教えてね。わたしがくれるわ!」

その夜、カロライナはいのりしました。「愛する天

のお父様、ネックレスを持ったままだったことをおゆるしく下さい。正しいことができるように助けてくださりありがとうございます。」

カロライナはまた、温かい気持ちを感じました。イエス様が自分に望んでおられることをすることができて、うれしく思いました。●

## わたしはくい改めることができます

わたしたちはみな、間違った選択をすることがあります。しかし、イエス・キリストとそのよきおかげで、わたしたちは物事を変え、正しくすることができます。これはくい改めと呼ばれています。わたしたちはくい改めるとき、自分がきずつけた人にごめんなさいと言います。間違いを直そうとします。ゆるされるためにいのります。その間違った選択を二度としないように最善をつくします。そうすれば、わたしたちはゆるされ、天のお父様が与えてくださる平安を感じることができます。

